

## 連珠棋譜データベース「BanEditor」 Ver.3.8

©ron. 1992-2003

2001.11.30 第1版 (Ver.3.5)

2003.4.27 第2版 (Ver.3.8)



盤エディタは「カンパウェア」です。(特典あり ^^ → 14 ページ参照)

盤エディタに関する一切の権利は、ron. (久富隆洋) が保有します。

無断で配布しないでください。

## 1. 外字の設定

BanEditor は、専用の外字を使用します。

まず起動します。[ファイル]－[初期設定]を選択すると、右のダイアログが出てきます。一番下にフォントの設定があります。[フォント選択]のボタンをクリックすると、下のダイアログが出ますから、外字を関連付けるフォントを選択してください。外字の設定が終わったら、一旦 Windows を再起動してください。再起動前に、Windows フォルダにある「ttfCache」ファイルを削除しおくと完璧です。

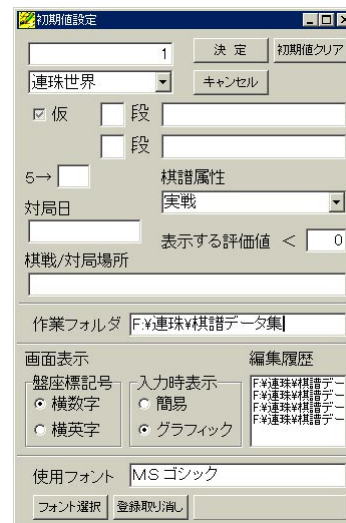
※注意：Windows に「全てのフォントにリンク」した外字を設定していると、外字が全て認識されません。「全てのフォントにリンク」ではなく、「フォント毎にリンク」させた外字を使ってください。

※トラブル！！：Windows を再起動して盤エディタを起動したら、全て「・」で表示された——場合は、

Windows フォルダにある「ttfCache」ファイルを削除して、Windows を再起動してみてください。

※情報 1：外字のリンク情報は、レジストリの HKEY\_CURRENT\_USER¥EUDC¥932 に記述されています。

※情報 2：「ttfCache」は、隠しファイルのため、Windows のデフォルト設定では見えません。フォルダのメニューから [ツール]－[フォルダオプション]－[表示] で、「ファイルとフォルダの表示」を「すべてのファイルとフォルダを表示」にしてください (Me の場合)。



## 2. ファイルの選択

使用するファイルを選択するには、メニューの [ファイル] から、[開く] を選択します。ファイル選択の画面が表示されますから、目的のファイルを選択してください。いよいよ編集画面になります。

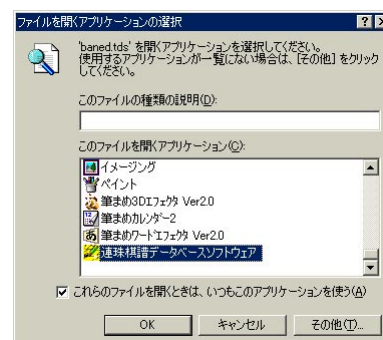
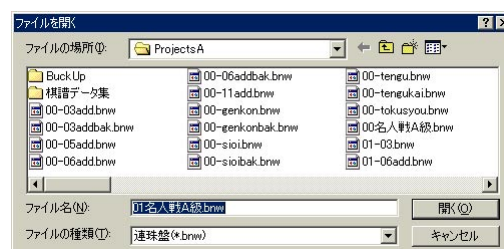
ファイルを新規で作成する場合は、ここに新しいファイル名を入力してください。

ファイルのダブルクリックで起動したい場合

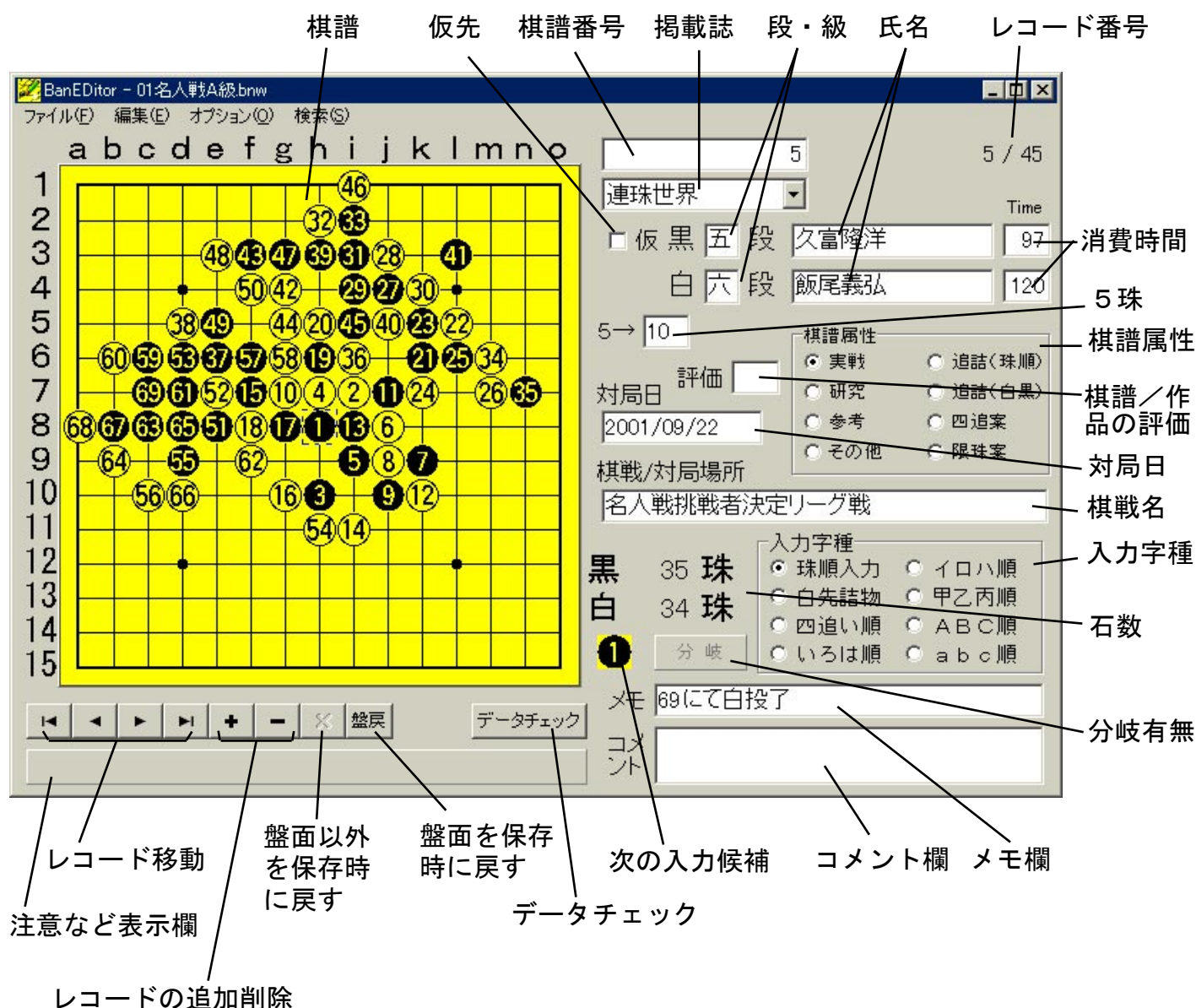
盤エディタのデータベースファイル (拡張子「.bnw」) を一度、ダブルクリックしてみてください。右図のようなダイアログが表示されます。ここで、盤エディタを選択し、OK を押してください。以後、ファイルをダブルクリックすれば、盤エディタが立ち上がります。

もう一つの起動方法

盤エディタのデータベースファイルを盤エディタのアイ



コンにドロップしても、ファイルを開くことができます。



### 3. 入力／閲覧モード

ファイルを開くと、入力／閲覧モードになります。

実戦譜の入力時は上の画面になります。入力に当たって、IME の制御 (ON / OFF) は、ソフト側で行っていますが、必要に応じて切り替えてください。

#### a) 棋譜番号

入力できるのは数字だけです。

雑誌掲載の棋譜は、西暦 4 桁 + 月号 2 桁 + 掲載ページ数 4 桁 + 番号 2 桁 (12 桁) を公式の表記としたいと思います。ご協力を。番号 2 桁は、出現順に付けます。

実戦では、西暦 4 桁 + 月 2 桁 + 日 2 桁 + 番号 3 桁 (11 桁) を使用します。

#### b) 掲載誌

棋譜が掲載された雑誌名です。実戦の時は、世界戦・名人戦は専用コードを用意しましたが、それ以外は単に「実戦」としてください。ここは勝手に増やせないようになっ

ています。増やしたいときは、連絡をください。(登録ユーザのみ可)

#### c) 仮先

黒が仮先の時、チェックします。白が仮先の時は外します。

詰連珠の時は、黒先の時チェックし、白先の時外します。

初期状態に戻すには、右クリックしてください。

#### d) 段・級

黒番・白番の人の段級位を入力します。入力は、数字と－(半角マイナス)、M、0、kに制限されています。段位は、1～9の数字を入力します(「格」のときは、数字の後にkを付けます)。級位は－1～－12の数字を入力します。名人はM、王位は0を入力します。

#### e) 氏名(全角10文字まで)

対戦者の氏名を入力します。詰連珠の時は、作者の氏名になります。共作は黒白の両方の欄を使用してください。

#### ・登録してある対戦者・作者データの検索

この欄に仮名1文字を入力して「Ctrl+ ↓」を押すと、登録してあるデータから検索して該当するデータの最初を表示します。「↓」で次のデータが表示されます。「↑」で、前のデータに戻ります。

この欄に漢字を入力すると、該当する文字を氏名の最初に含む人のデータが表示されます。データの移動は、仮名の場合と同じです。

データの検索内容を変えた場合は、必ず「Ctrl+ ↓」を使用してください。「↑」「↓」では、途中からの検索になります。

#### ・データの登録

この欄に入力し、「Ctrl+ ↑」を押すとデータを登録します。登録するときは、

- ・段級位を段・級の欄に入力

- ・氏名の後に「、」または「,」で区切って、読みの最初の一文字を入力

してください。

既に登録してある氏名の場合は、該当するデータの段級位・読みを入力データで訂正します。

#### ・データの削除

「Shift + Ctrl + Delete」で、該当する氏名データを削除します。

#### f) 消費時間

消費した時間を入力します。

#### g) 5珠

5珠2カ所打の場合に、棋譜に現れなかったもう一つの5の位置を入力します。

#### h) 対局日

対局した年月日を入力します。詰連珠の場合は、掲載した雑誌の発表月になりますが、日付は雑誌の発行日にします。書式は、yyyy/mm/ddです。

なお、連珠世界は1日発行となります。

年の表示桁数は、Windowsの[コントロールパネル]－[地域]－[日付]の[短い形式]の設定に依存します。2桁で入力した場合は、適当に判断して4桁に直して表

示しますので、適宜訂正してください。

**i) 棋戦／対局場所（全角 25 文字まで）**

棋戦名・対局場所を入力します。詰連珠の場合は、ここが作品タイトル欄になります。

**j) 棋譜属性**

棋譜属性には、実戦系の「実戦」「研究」「参考」「その他」と、詰連珠の「追詰（珠順）」「追詰（白黒）」「四追案」「限珠案」の合計 8 つ区分になります。どれかを必ず選択してください。印刷でここを参照するので、きちんと入っていないと印刷がおかしくなります。

**k) 入力字種**

盤面に入力する字種を決定します。

**l) 分岐有無**

分岐データの有無を表示します。ある場合は、緑色表示、無い場合はグレー表示になります。

**m) メモ欄（全角 50 文字まで）**

メモ欄です。

実戦の場合、結果をここに入力します。原則として

- ・「00 にて黒投了（白投了）」
- ・「00 にて満局」
- ・「00 にて黒五連（白五連）」
- ・「00 にて黒長連禁」

のように記入してください。太字がキーワードになっています。

また、決定戦の場合には、成績を別扱いするため、ここに「決定戦」と記入してください。

なお、Ctrl+ ↓で「00 にて○投了」が、Ctrl+ →で「00 にて満局」が、手数を盤面から計算した形で入力できます。

棋譜属性に詰連珠項目を選択すると、ここに選択ボックスが現れます。既に登録してある属性から、適当なものを選択してください。00～99 の文字でデータが入力されます。

詰連珠でどうしてもこの欄に記入したい場合は、棋譜属性を実戦系にしてから入力し、その後で棋譜属性変更します。

**n) コメント欄**

コメント欄は、字数を気にせずに入力できます。初期状態では 2 行分しか表示していないので不便です。メニューからオプションーコメント記入（ショートカット「Ctrl + M」）を選択すると、コメント欄が大きくなります。

**o) 入力候補文字**

マウスのクリックと Enter キーの押下で入力される文字を示します。

**p) 評価**

棋譜／詰連珠作品の評価を入力します。当然、主観的な評価ですので、ユーザ各自が好きな数値を入力してください。

初期設定で設定した値より大きな値をここに入力すると、入力画面で表示されなくなります。なぜこんなものがあるか—というと、一つには、データとしては必要でも、普段は表示したくない棋譜や作品を、非表示にしたい。もう一つは、詰連珠の作品を、レ

ベル分けしたい、という目的です。

#### q) データチェック





石の欠落や重複をチェックします。「Ctrl+S」で次のデータ入力に進むときは、必ずチェックが入ります。

#### r) レコードコントロール

##### ・レコードの追加削除（＋、－）

＋がレコードの追加、－がレコードの削除。

##### ・レコード移動

「」は、最初のレコード、「」は前のレコード、「」は次のレコード、「」は最後のレコードへ移動します。

##### ・保存時に戻す（盤戻・×）

保存した時点にデータを戻す。盤戻が盤面を、×が他のデータを戻す。

#### s) レコード番号

分母が総レコード数、分子が現在のレコード番号を示します。

#### t) 棋譜

棋譜の入力部分です。矢印キー（↑↓←→）でカーソルが上下左右に動きます。



入力、カーソルの位置で行われます。

入力方法は大きく2種類あります。

##### ・マウスによるクリック

マウスで入力した場所をダブルクリックすると、入力候補文字が入力されます。

##### ・キーボードによる入力





数字を入力することで、カーソル位置に入力字種でせっていしてある石や記号が入力できます。たとえば、「05」と入力すると、入力字種が珠順入力なら「」、白先詰物なら「」、イロハ順なら「ホ」、四追い順なら「5」が入力されます。

100手を越える場合は、100番台が「A」＋数字、110番台が「B」＋数字、となります。以下、F9（159）まで入力できます。

Enter キーを押すと、入力候補文字が入力されます。

##### ・棋譜入力中のみ有効なショートカット

###### 入力系

- ・「/＋数字」：入力字種をダイレクトで選択。
- ・「数字」：入力字種を数字で指定して入力。
- ・「Shift＋英字」：大文字の英字入力。
- ・「」：「」を入力。
- ・「」：「」を入力。
- ・「スペース」：入力のデータを消去（盤に戻す）。

###### 編集系

- ・「矢印」：カーソル位置の移動。
- ・「Shift＋矢印」：カーソル位置からの石を1路分矢印方向へ移動します。
- ・「Insert」：カーソル位置に空きを挿入。従って、カーソル位置から右が一路右へずれる。



- ・「Delete」：カーソル位置を削除。従って、カーソル位置から右が一路左へずれる。
- ・「Ctrl + Insert」：石を白黒入れ換える。
- ・「Shift + Insert」：カーソル位置以降の石を一つずつ次の石にする。
- ・「Shift + Delete」：カーソル位置以降の石を一つずつ前の石にする。
- ・「K」：盤面の回転・反転。「K」に続けて数字入力で直接指定可能。

#### 選択・コピー・ペースト

- ・「Ctrl + A」：盤面全選択。
- ・「Ctrl + B」：範囲内のデータ消去。
- ・「Ctrl + C」：範囲内のデータをクリップボードへコピー。
- ・「Shift + Ctrl + C」：RENA アップレット用の文字列（註）をクリップボードへコピー。
- ・「Ctrl + X」：範囲内のデータをクリップボードへコピーし、消去。
- ・「Ctrl + V」：クリップボードからのペースト。RENA アップレット用の文字列を直接ペーストして棋譜にすることも可能。
- ・「I」：盤面をそのまま裏側にコピー。
- ・「T」：盤面を白黒譜にして裏側にコピー。
- ・「Shift + Ctrl + V」：裏側から表にコピー。

#### レコード操作

- ・「J」：指定のレコードへジャンプ。
- ・「S」：データ保存。
- ・「Ctrl + N」：新しいレコードを入れる。
- ・「PageUp」、「+」：前のレコードへ移動。
- ・「PageDown」、「-」：次のレコードへ移動。

（註）RENA アップレット用の文字列：「7800...」という文字列。但し、分岐には対応していない。

## 入力／閲覧モードのメニュー説明

### 1. [ファイル]－[開く]

別のファイルを開きます。

### 2. [ファイル]－[別名保存]

現在開いているファイルを、別名で保存します。

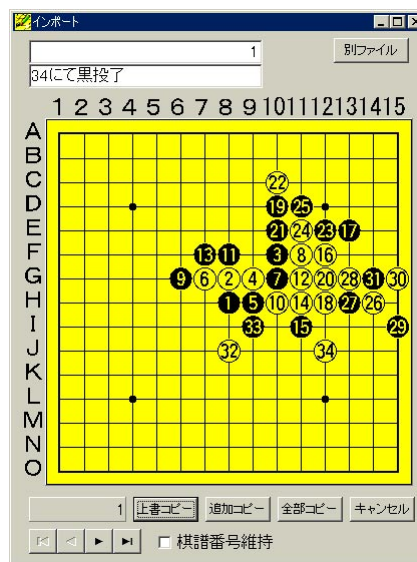
### 3. [ファイル]－[インポート]

他のファイルからデータをインポートします。

対応しているのは、

- ・固定長のテキストファイル（MS-DOS版 盤エディタの形式）
- ・盤エディタ for Windows Ver.2 Ver.3
- ・Renlib
- ・RenArtist (RENA)
- ・日立 LX 初期形式
- ・Msioi（問題・解答）
- ・自分で書いた HTML

※ちょっとバグバグしてます（^^;; が、機能的には問題ないと思います。



### 4. [ファイル]－[エクスポート]

他のファイル形式へデータをエクスポートします。

主に詰連珠用。

テキスト形式に吐き出すことは出来ます。

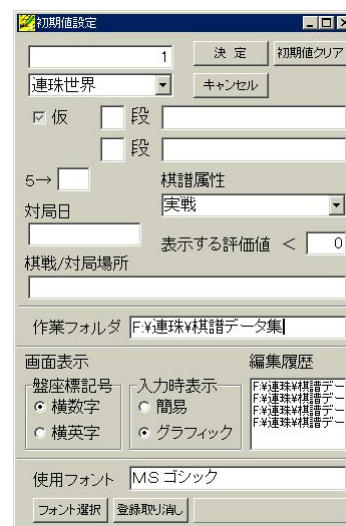
### 5. [ファイル]－[初期設定]

新規データを挿入したときに、ここで設定した値を参照します。

[表示する評価値] の取り扱いは注意してください。ここで指定した値以下のデータは入力／閲覧画面で表示されません。いったん消してしまったら、ここで表示する評価値を変更するまで表示されません。

[作業フォルダ] は、ファイルを開くときに表示されるフォルダです。ここに、棋譜データを集めたフォルダを指定しておくと、作業が楽になる…かも。

[画面表示] の部分は、盤の座標系の設定と、入力モードの設定が出来ます。座標系は、横英文字・縦数字と、横数字・縦英字から選択します。入力モードは、入力画面での表示をグラフィックスベースかキャラクタベースかの選択をし



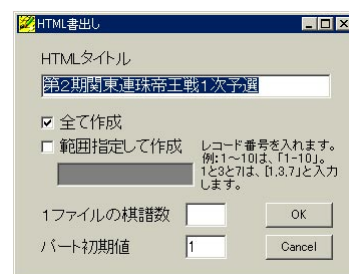


す。

## 6. [ファイル]－[HTML]

データのHTML書き出しを行います。盤の表示をRena（奥野友介氏作成）のアップレットに任せるので、必ず3つのクラスファイルをHTMLファイルと同じ階層に置いてください。

※このアップレットの使用は現在作者によって制限されています。詳しくは、奥野氏（yusuke\_o@hamal.freemail.ne.jp）に問い合わせてください。



- ・[HTML タイトル]：ビューで表示したとき、ここで設定した文字列がタイトルとして表示される。

- ・[全て作成]／[範囲設定して作成]：どちらかを選択します。範囲設定の書式は、下記の例参照してください。

例：1～10 は、「1-10」。 1 と 3 と 7 は、「1,3,7」と入力します。

- ・[1 ファイルの棋譜数]：1 ファイルあたりに収める棋譜の数を設定します。

- ・[パート初期値]：複数ページに渡るとき、Part 「○」 から始めるように設定する。

## 7. [ファイル]－[棋譜のBMP]

棋譜部分だけを、BMP 形式で保存します。GIF を直接扱うには、ライセンスが必要なので BMP で済ませています。GIF が必要な人は、BMP からコンバートしてください \_0\_。

## 8. [ファイル]－[印刷]

- ・[レポートタイトル]：レポートの上段に、ここで設定した文字列がタイトルとして印刷される。

- ・[全て作成]／[範囲設定して作成]：どちらかを選択します。範囲設定の書式は、下記の例参照してください。

例：1～10 は、「1-10」。 1 と 3 と 7 は、「1,3,7」と入力します。

- ・[オプション]：実戦譜の場合 [対局日、棋戦／対局場所] を印刷するかしないかと、[カラー] 印刷をするかしないかを選択します。デフォルトでは、どちらも「する」方にチェックされています。

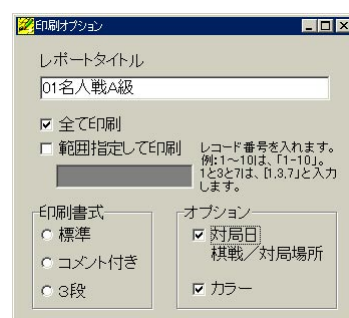
- ・[印刷書式]：標準(2段)、コメント付き(1段)、3段の三種類から選択してください。ここを選択すると、プレビュー画面が現れます。

実際の印刷は、プレビュー画面の [印刷] をクリックしてください。

※プリンタの変更：プリンタを変更するときは、プレビュー画面の [印刷設定] でプリンタを選択し、そのまま一度プレビューを閉じ、再度 [ファイル]－[印刷] でプレビューを表示して印刷してください。

## 9. [編集]－[コメント記入]

コメント欄が大きくなるので、コメントの記入が楽になります。



印刷設定    印刷



## 10. [編集]－[記号パレット]

記号入力用のパレットが表示されます。必要な記号をダブルクリックすると、盤に入力されます。また、左下のボックスに必要な記号をいれてOKボタンを押しても、盤に入力されます。いずれかの方法を使用してください。



## 4. 変化・検討モード

入力して保存されたデータを基に、手順を鑑賞したり、変化を検討できる画面です。ここでは、変化手順を分岐記述できるようになっています。

最後の手は茶色で示されます。

次の手は緑色で表示されます。2つ以上の緑色表示がある場合、それが分岐を示します。

### a) 左クリック

入力字種が「珠順入力」の時に、盤面を左クリックすると、次の手が入力されます。既に表示されている手順の上でクリックすると、次の手（緑表示の手）が表示されます。

「四追い順～abc順」までの時は、ダブルクリックすることで、入力候補の文字が入力されます。入力画面同様に、キーボードから数字での入力も出来ます。しかし、クリックした場合は分岐として記録されますが、キーボードからは記号としてしか認識しません。この相違に注意してください。

### b) 右クリック

前の手に戻ります。

### c) コメント欄

現在表示されている手に対するコメントが入力できます。

### d) メモ欄



入力画面のメモと同じです。

### e) コメントリスト欄

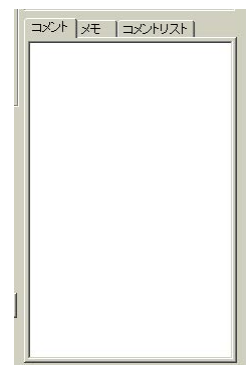
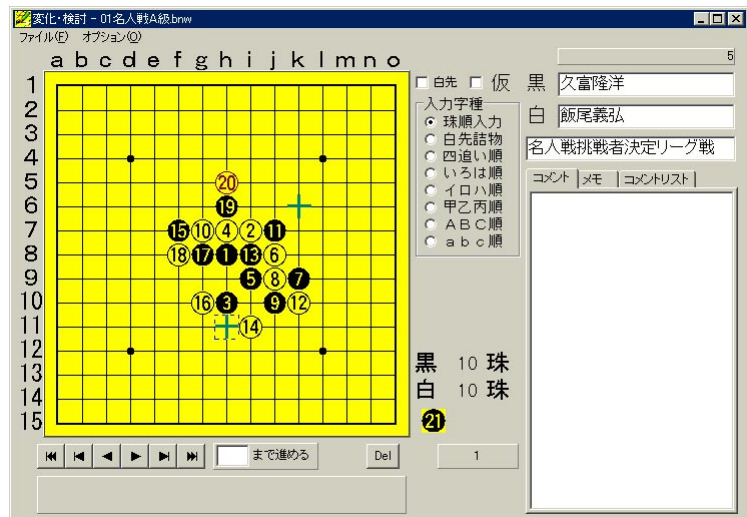
入力されたコメントが一覧で表示されています。ダブルクリックすると、コメントの対応する手を表示します。

### f) 手順コントロール

盤の下の方の右向き・左向きの三角が、手順をコントロールします。

- ・「」 最初の状態に戻る
- ・「」 前の分岐終端へ戻る

Shift キーを押している、前の分岐を登録した上で最初の手を表示



- ・「◀」 前の手を表示
- ・「▶」 登録されている次の手を表示
- ・「▶」 分岐の終端を表示。現在が終端の場合、次の分岐の終端を表示
- ・「▶▶」 最後の分岐終端を表示
- ・「□まで進める」 入力した手までを表示。+ 手数、- 手数で相対的な移動も可能
- ・「Del」 表示されている最終の手以降の分岐を削除する

#### **g) テストモード**

メニューの [ オプション ] からテストモードを選択すると、現在の分岐状態が一時保存されます。

テストモード中は、テストモードのメニューにチェックが入り、赤字で「テスト中」の表示が出て、分岐の表示が青になります。

テストモード解除は、再度メニューからテストモードを選択し、チェックを外します。この時、テストデータの保存をするかどうか確認が求められます。「はい」なら、テストデータが保存データに上書きされます。「いいえ」なら、テストデータは破棄されます。

#### **h) ガイド ON / OFF**

次の手を緑（や青）で表示しているガイドを表示しないようにします。先入観無しで盤を見るときや、詰連珠を考えるときは、OFFの方が良いのではないのでしょうか。なお、詰連珠の時は、デフォルトがOFFです。

## 5. 検索モード

検索可能な項目は、「掲載誌」「対局者名（作者名）」「対局日（掲載年月）」「対局場所／棋戦（作品タイトル）」「棋譜属性」「評価」「棋譜（作品）」です。検索オプションの「部分一致可」がチェックされていると、「掲載誌」「対局日」「棋譜」以外の検索に関しては、入力された値に対し先頭から一致するものを一致したものと判断します。チェックを外すと、完全に一致したものだけが検索結果となります。

以下に検索方法を詳しく説明します。

### a) 掲載誌

ダイアログから該当する項目を選択します。

### b) 対局者名（作者名）

入力場所は「黒」側と「白」側の2箇所あります。オプションをつけなければ、どちらで検索をかけても同じ結果になります。

入力するのは、対局者（作者）の名前になります。

オプションの「人名をORで検索」のチェックがついていると、「黒」側の対局者名と「白」側の対局者名のどちらかが関係した棋譜が該当します。チェックを外すと、「黒」側に入力した対局者と「白」側に入力した対局者が対戦した棋譜が検索に該当します。

「黒番白番限定」のチェックが入ると、黒番欄に入力した名前は黒番の場合のみ、白番欄に入力した人名は白番の場合だけが検索に該当します。

従って、AさんとBさんの棋譜を検索するなら、AさんとBさんをフルネームで入力し、「人名をORで検索」のチェックを外し、「黒番白番限定」のチェックも入れません。

なお、ここでも入力画面と同様に登録済みの名前を呼び出すことができますが、登録はできません。

### c) 対局日（掲載月）

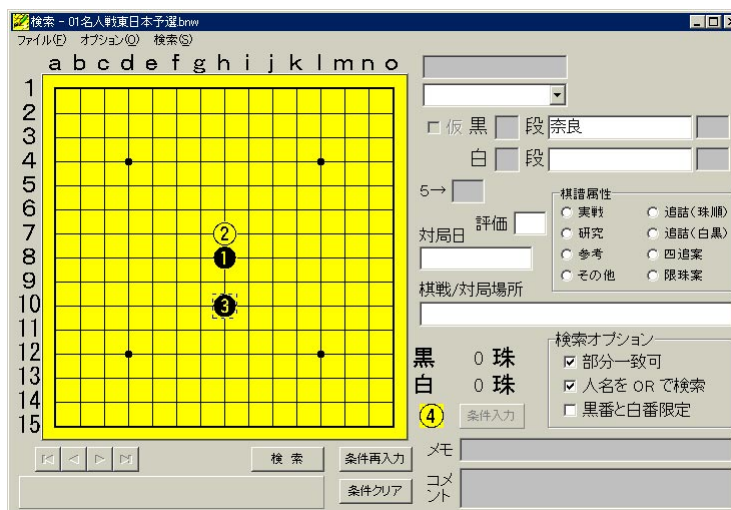
検索する年月日を yyyy/mm/dd 形式で入力します。

日付の前に「<、>、<=、>=」を付けることで、「より昔、より新しい、以前、以後」を指示できます。さらに、「yyyy/mm/dd - YYYY/MM/DD」で、日付の範囲を指定できます。

### d) 棋戦／対局場所（作品タイトル）

棋戦／対局場所欄に入力された文字列を検索します。実際に対局場所だけを検索しようとしても、検索に引っかかるように入力されていない場合が多いため、引っかからないことが多いと思います。

詰め連珠の場合には、作品のタイトル検索になるので、有効に利用できるでしょう。



#### e) 棋譜属性

主に使うのは、実戦と詰め連珠の形式でしょう。詰め連珠属性の場合には、メモ欄が有効になります。メモ欄で作品の詳細な属性を指定することが出来ます。

#### f) 評価

あらかじめ、評価してあることが前提になります。数値の前に「<,>」を付けることで、「より上、より下」を検索できます。詰連珠の場合に便利です。

#### g) 棋譜（作品）

検索したい棋譜を入力してください。実戦では 25 手までの形を検索できます。

詰連珠の場合は、配石数に関係なく最終形でのみ検索が出来ます。

検索は、回転や対称、盤端関係を見出し、同形のものを「一致した」と判断します。

この機能は、インデックス（下記）がないと利用できません。

## 6. インデックスの作成

[ 検索 ] - [MakeIndex] でその棋譜、[ 検索 ] - [MakeIndex-All] で全ての棋譜のインデックスを作成します。

インデックスの作成速度はかなり遅いです。従って、インデックス無しで運用する方が、入力時の負担が減り高速に動作します。

BanEditor は、インデックスがないファイルはないなりに、あるファイルはあるなりに扱います。ファイルを開いたとき、インデックスがあればインデックスモード、なければ非インデックスモードで動作しています。最初にインデックスを作るときは、どちらかのメニューを選択してください。

## 7. ファイル構成

盤エディタのデータベースデータファイルは、最低 3 ファイル、最大 5 ファイルからなっています。

「.bnw」がデータベースの本体。

「.MB」には、メモ、分岐、コメントのデータが入っています。

「.PX」は、キーの重複を禁止する情報が入っています。「.PX」ファイルがなくてもデータを開くことは出来ますが、キーの重複が許容されるので、検索結果の信頼性がなくなります。

「\_.idx」がインデックスファイル。

「\_.PX」には、キー重複を禁止する情報が入っています。

この 3（または 5）ファイルを一まとめにして扱うようにしてください。

## 改変履歴

Ver.1：MS-DOS 版。固定長のテキストファイル。

Ver.2：Windows 対応版。データベース構造を基にして、MS-DOS 版を移植。

Ver.3.11：一部公開バージョン

Ver.2 に対して、検索・分岐記述・印刷・HTML 機能が追加された。

Ver.3.5：公開バージョン

外字フォントを、外字を含む単独のフォントから、元フォントに対するリンク関係に変更した。著作権の関係を明確にするため。

Ver.3.8.1：公開バージョン 2 版

バグフィックス。特に、局面検索時の同型検索の不具合。

検索条件の強化。BMP 書き出し機能。

## Special Thanks !

BanEditor は、奥野友介氏の優れた JAVA アプレットをサポートしています。現在、このアプレットの無償での使用が不能となったことは残念ですが、サポート部分は切り離していません。ただ、前のバージョンで同梱されていたアプレットは削除しました。

有償での使用の可否は奥野氏 (yusuke\_o@hamal.freemail.ne.jp) に問い合わせてください。

## カンパについて

盤エディタは「カンパウェア」です。5,000 円を下記へ振り込むと、ユーザ登録がされます。

登録ユーザの特典として、

- ①若干の機能追加したバージョンを配布します
- ②私が入力したデータをお分けします
- ③リクエストに応える部分があります

の3点です。

なお、日本連珠社の活動に協力していただいている方は、自動的に登録ユーザとして扱わせていただきますので、連絡だけください。

非登録ユーザは、特典がない以外差異はありません。気兼ねなく利用してください。

送金先：三和銀行相模大野支店 普通口座 278567

久富隆洋 (くどみ たかひろ)

別途、送金した旨のメール (ron\_kudomi@ybb.ne.jp) をください。